

令和5年度第2回 八尾市立歴史民俗資料館運営委員会（概要）

開催日時：令和6年3月14日（木）午前10時～午前11時30分

開催場所：八尾市立高安コミュニティセンター2階 会議室

【出席者】

参加委員：学識経験者5名 市民代表2名 その他関係者1名：計8名

森田克行委員長・植村和代副委員・亀甲知之委員・角倉泰子委員

川村美由紀委員・黒田一充委員・藤井弘章委員・浅見緑委員

指定管理者：公益財団法人八尾市文化財調査研究会（小谷館長・樋口係長・船曳学芸員）：計3名

新指定管理者：小学館集英社プロダクション共同事業体 担当者3名

事務局：新堂魅力創造部長・西澤観光・文化財課長・藤井係長：計3名

【議事録】

（1）新指定管理者について

・事務局より公募および選定の経過を報告したのち、新指定管理者となる小学館集英社プロダクション共同事業体（㈱小学館集英社プロダクション・㈱長谷工コミュニティ）を紹介した。

（2）令和6年度管理運営事業計画について

小学館集英社プロダクション共同事業体より、令和6年度の管理運営計画の説明を行った。内容にかかわる部分についての主な意見及び質問は以下のとおり。

・学芸員4名のうち、3名が新規採用職員であるので、館長の負担が大きくなると考えられるが、新体制のバックアップは大丈夫か。

→現指定管理者と新指定管理者及び八尾市との業務等の引継ぎを密に行っており、その移行が円滑に行われるように取り組んでいます。また、次回の委員会で新規の学芸員を含む新体制を紹介できればと考えています。

・歴史民俗資料館ではこれまで河内木綿を重視してきたので、引き続き取り組んでほしい。

→これまでの事業は継承し、新たな学芸員でも河内木綿を担当する学芸員を配置します。

・歴史民俗資料館では大和川の付け替えをテーマにしているので、八尾市にとどまらず、より広い視野をもってほしい。

→八尾市の歴史にとどまらない視点で、資料館事業に取り組んでいきます。

・学校教育との連携では、冬の企画展で足を運んでもらうだけでなく、先生へのアプローチも重要である。歴史民俗資料館の認知は思っているほど高くない。

→資料館を知ってもらう、活用してもらうための先生へのアプローチの重要性を理解できました。今後対応を検討していきます。

- ・新企画である「PR TIMES」とはどのようなもので、どんな効果があるのか。
→全国の報道機関への資料館事業等のプレスリリースの情報配信サービスで、これまで以上に広く情報を発信できるものと考えています。
- ・キャッシュレス決済はどのようにするのか。
→手数料等も必要であることから、来館者のニーズをふまえつつ、どの決済を導入するのか検討していきたいと考えています。
- ・「まちのコイン」の導入を検討しているのか。
→利用者層の拡大を目的として、導入を検討しています。

意見聴取の後、出席委員全員により、新たな指定管理者の取り組みに期待をもって、令和6年度管理運営計画は了承された。

現指定管理者の歴史民俗資料館館長及び観光・文化財課長の挨拶を経て委員会を終了した。